



みちくさ

放浪篇 No. 7 平成 29 年 8 月 25 日

書店ゼロの自治体

朝日新聞の記事が気になりました。全国に書店のない自治体が 2 割もあるのだとか。丸森に勤めていたときは、自分は白石に住んでおりました。白石が気に入ったので、「この町に土地を買って住まないか」と、かみさんに提案したところ、「本屋もない町は嫌です」とあっけなく却下されました。(断っておきますが、白石には本屋はあります)

書店という規模もあるのでしょうか。またここでいうところの自治体の範囲をどれくらいで見ているのか。例えば、うちの実家の秋田市は当然大きな本屋は存在していますが、それは秋田の駅前にあり、電車で駅 1 つ離れた実家の周りには、確かに本屋はありません。



そもそも、本屋の存在で何を語ろうとしているのでしょうか。本屋がないところは文化的なレベルが落ちていると訴えたいのでしょうか。このニュースの趣旨がよく分からないので何とも言えないのですが、きっとこのニュースを見た人から、今はネットで本を買えるし、電子書籍もあるから本屋の有無は関係ないだろうと出てくるような気がします。

では、皆さんは本屋に何を求めますか。私は駅前の丸善、ジュンク堂、三越のヤマト屋によく行きます。書店によって得意不得意があるのか、専門書ならこちらという具合に、求める本の種類で場所を変えます。別に買う本が無くても、ぶらぶらといろいろなジャンルの本を手にとって見ているだけで時間はまったりと過ぎていく感じがします。時々そういう刺激が欲しくなり、本屋に出没している気がしますが、これが本屋で無くても図書館でもいいわけですね。要は身近なところに書籍を目にする場所があるということが大事なのでしょう。

たまに東京に行くと、時間が空いたときには東京駅の丸の内口にある丸善が入っている大きなビルに行きます。エスカレーターで数階分、びっしりと本屋が入っていて、とっても刺激があります。こういう本屋が近くにあるといいなと本当に思います。何も東京に行ったときに本屋に行かなくてもいいのかと自分でもおかしくなるときがありますが、でも本屋に入って、陳列されている本を眺めたり、書店の人が書いたディスプレイを読んだりするだけでワクワク感があります。そういう時間と空間を自分は本屋にもとめているのかと思います。もちろんラジオで紹介された本を探しに行

って買い求めるという場合も当然ありますけれど。

仙台に住んでいることは、そういう意味ではとても幸せだと思います。

アラン・ケイ

アラン・ケイのことを書いた記事を読みました。パーソナルコンピュータの父と呼ばれたアラン・ケイですが、アップルのスティーブ・ジョブスに大きな影響を与えたことは有名な話です。パロアルト研究所に勤めていたアラン・ケイのところに訪ねていったとき、スティーブは Alto と呼ばれていたコンピュータを見て衝撃を受けます。あくまでも実験的に造られたモノであったようですが、マウスが動いていて、そして GUI（グラフィック・ユーザー・インターフェース）も実現していたようです。そこからヒントを得てマッキントッシュが完成します。まあ、見ただけでそれを実現させた方も凄いと言えは凄いですけど、でもアラン・ケイの存在は、今の時代の ICT 業界には、大変な功績であったと思うのです。なんて言ってもコンピュータが部屋一つぐらいの大きさなのかという時代のことです。

数々の予言をしているのも注目です。コンピュータはブラウン管の大きさに収まるようになるとか、ダイナブック構想とって、ダイナミックな本という新しい構想をつくったのもアラン・ケイですね。なぜか東芝がダイナブックをばくってはいますけれど。

コンピュータを無造作に置いた部屋によちよち歩きの赤ちゃんを連れてくると、ぜったいキーボードやマウスにはふれもしないのだとか。すでにこの頃から画面にタッチを予言していたのも彼です。そうですね。iPhone や iPad のアイデアがここにあったのです。アラン・ケイはまだ健在のようですが、きっとノーベル賞ものなのではないかと私は思います。なんと言っても、私たちの表現力をこんなに高めてくれたのですから。

うろこ雲だよ

今日からまた学校がリスタートしました。朝は雨がぱらついてたけれど、やっと晴れましたね。すっかり装いは秋の空。散歩しているとススキの穂を見つけます。こうなると秋は早いですね。これから市小体の練習も始まるでしょうし、暑さが戻らなければ、それはそれでいいのですけれどね。

